



新しく働く人のための 性感染症ハンドブック

自分の体を守るために、これだけは知っておいてほしいこと

監修:Dr. Taro(性感染症内科医)/くわしくは裏面のQRコードから、ウェブ版・詳しい版をご覧ください

1 性感染症は、のどにも、うつる

- 性感染症は、性器(膣・ペニス)だけでなく、**口・のどや肛門**にもうつります
- フェラチオなどのオーラルセックスでも、のどに淋菌・クラミジア・梅毒**などがうつります
- コンドームなしの性交(本番)**は、ほとんどすべての性感染症と妊娠のリスクがあります。コンドームを使えないときは、検査・PrEP・ピルなどを組み合わせて
- 梅毒と診断された女性の**3人に1人以上**が、直近6か月以内に性風俗の仕事をしていました※¹

2 症状がなくても、定期的に検査

- クラミジア・淋菌・梅毒は、**症状がないことが多い**
- 検査の中心は、**性器とどの**クラミジア・淋菌、**血液**で梅毒・HIV
- 目安は**毎月**。でも、毎月で十分ではありません。心配なことがあれば、待たずに検査を
- 働き始めるときに**B型肝炎**も調べて、抗体がなければ**ワクチン**を

3 検査が陰性でも、予防は続ける

- 検査の直前にうつった場合は、まだ結果に出ないことがあります
- 検査のあとに、うつることもあります
- 「検査済みだから大丈夫」ではありません。**コンドーム**などの予防を続けましょう

4 こんなときは、その日は休んで受診

- おりものの量・色・においが変わった
- 性器や口に、しこり・ただれ・水ぶくれ・イボがある
- おしっこのときに痛い、下腹部が痛い
- のどの痛みが続く
- 体や手のひら・足の裏に、かゆみのない発疹が出た
- 熱が出た、足のつけ根がはれた

検査を受けられる場所

- 医療機関**(性感染症内科、婦人科、泌尿器科など):のどの検査もでき、陽性ならそのまま治療できる。**いちばんのおすすめ**
- 保健所**:HIV・梅毒などを、**無料・匿名**で受けられるところが多い
- 郵送検査**:自宅でする。陽性なら、必ず医療機関へ



「なんか変かも」と思ったら、無理して出勤しないで。早く受診するのが、いちばんの近道です。

5 陽性が出ても、あせらない

1. 医療機関で治療を始める。ほとんどの性感染症は、薬で治ります
2. クラミジア・淋菌などは、治療を受けたら出勤してよいと考えています。処方された薬は最後まで飲み切る。病気によって違うので、医師に確認を
3. プライベートのパートナーにも、検査・治療をすすめる
4. 治ったかの確認と、約3か月後の再検査を忘れずに

性感染症は、いつ、誰からうつったかは分からないことがほとんどです。自分を責めなくて大丈夫です。

6 事故があったら、時間との勝負

コンドームが破れた・外れたときは:

- 妊娠が心配 → アフターピルを、できるだけ早く(72時間以内。種類によって120時間以内)。薬局でも買えるものがあります
- HIVが心配 → PEP(HIVの予防薬)を、72時間以内に。できるだけ早く医療機関へ
- 性感染症の検査 → クラミジア・淋菌は7日後以降、梅毒・HIVは4週間後が目安

7 自分を守る方法

- コンドーム(オーラルセックスでも)
- ワクチン:B型肝炎、HPV
- 避妊:低用量ピルやミニピル。性感染症は防げないので、コンドームと一緒に
- 生理の時期をずらしたいとき:ピルで遅らせたり早めたりできます(月経移動)。早めに医師に相談を
- 希望があれば医師と相談:PrEP(HIVの予防)、Doxy-PEP(梅毒・クラミジアなどの予防)

8 検査結果は、あなたの大切な個人情報

- 検査結果は、法律で特に慎重な扱いが必要な個人情報(要配慮個人情報)です※2
- お店が検査結果を知ったり、ほかの人に伝えたりするには、原則としてあなたの同意が必要です

これだけは覚えておこう

- 性感染症は、のどにもうつる
- 症状がなくても、定期的に検査
- 陰性でも、予防は続ける
- 症状があれば、休んで受診
- 陽性でも、ほとんどは薬で治る
- 事故のときは、アフターピル・PEPは時間との勝負



ウェブ版(かんたん版)



詳しい版

※2 個人情報保護委員会「『要配慮個人情報』とはどのようなものを指しますか」

Dr. Taro 性感染症情報サイト <https://drtaro.jp>

このハンドブックは、特定の医療機関の案内ではありません。体のことは医師に相談してください。

2026年9月版